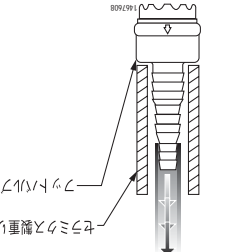
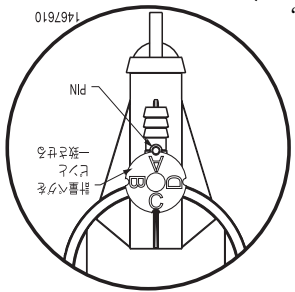


4 フットバル



セラミック製の重りを薬剤取り上げチューブの先端に置いてからフットバルを挿入します。フットバルがないと、計量プラグが外された場合、充填物を失うのでフットバルを追加することが重要です。



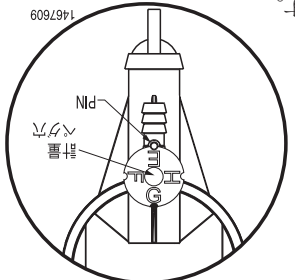
- 計量ベグを差し込み、図に示すようにをピンをウレシホーンの下で接続します。ウレシホーンは手で直接触れると位置が変わってしまいますが、カバーを付けたまま正常に作動します。
- ユニットにウレシホーンのをせ、両端をウレシホーンの下でピンにつなぎます。(このシート最初にあるユニット図を参照します。)
- ウレシホーンを押しつけてユニットを作動させ、水を集めながら薬剤吸引ライを充填します。水は捨てます。ウレシホーンは手で直接触れず、カバーの下で作動するようにデザインされています。ウレシホーンは手で直接触れると位置が変わってしまいますが、カバーを付けたまま正常に作動します。

5 充填

- 計量ベグを差し込み、図に示すようにをピンをウレシホーンの下で接続します。ウレシホーンは手で直接触れると位置が変わってしまいますが、カバーを付けたまま正常に作動します。
- ユニットにウレシホーンのをせ、両端をウレシホーンの下でピンにつなぎます。(このシート最初にあるユニット図を参照します。)
- ウレシホーンを押しつけてユニットを作動させ、水を集めながら薬剤吸引ライを充填します。水は捨てます。ウレシホーンは手で直接触れず、カバーの下で作動するようにデザインされています。ウレシホーンは手で直接触れると位置が変わってしまいますが、カバーを付けたまま正常に作動します。

6 希釈設定の選択

A 好ましい希釈度が得られる計量ベグを選択します。図に示すように、計量ベグをへが穴の上に位置するゲイジの文字を一致させます。右図の例では、B希釈設定が使用されています。

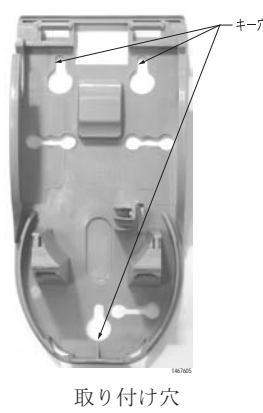


B 希釈比を計算し、以下の必要な条件を満足することを確認します：

- 計量/目盛りシリンダに薬剤を入れます。
- シリンダに入れた薬剤量を記録します。
- フロワーシヨを作動させます。このとき、1ガロン/1.2リットルのシヤク (高フロ) または16オンス/500 L のカット (低フロ) を充填します。
- 水：薬剤の量を記録し、希釈度を計算します。
- 必要に応じて、異なる計量ベグ設定を使い、必要な希釈度を得ます。

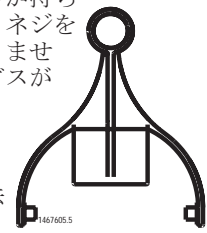
2 ユニットの取り付け (続き)

● 連結されたBetaJetを後部プレートに同時に取り付け、全体を使い、ユニット間の空間と正確に同じ間隔で壁に押しを付けます。



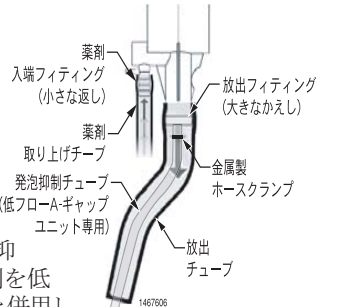
C 壁に1/4" (6 mm) の穴をドリルで開けます。コンクリート壁にはコンクリート用ネジを使います。

- D. 上部2本のキー穴ネジを固定します。
- E. 後部プレートをかけます。
- F. 底部キーホールネジを底部で固定し、後部プレートが持ち上がらないようにします。壁が平らでない場合は、ネジをしめすぎないようにすると、後部プレートが曲がりません。後部プレートが固定されると、すべてのサービスが可能になります。
- G. 水道を水流入端に接続 (しばしば、青色クリップを引き、BetaJetから水流入端フィッティングを抜き、ホースにねじ込んで固定するのが最も早い方法です)。
- H. 後部プレートにバルブ/ベンチュリ アセンブリを ウレシホーンにかけます。このときベンチリタブの下でカチリと音がして固定



3 チューブ接続

- A. 低フローA-ギャップのユニットの場合：透明な発泡抑制チューブをバンチュリ底部から突き出しているプラスチック製の差し込み部に接続します。対角線サイドカッタを使い、チームの金属製クランプをつかみ、差し部にしっかり固定します。発泡抑制チューブは、水の流量と発泡抑制を低減させるので、低フローR-ギャップと併用しません。
- B. バケツ充填のアプリケーションの場合：大きな放出チューブを大きなかえしまで配管します。結束バンドを使い、放出チューブを大きなかえしに固定し、バケツのスプリングフックをチューブの他端に取り付け、バケツにかかるようにします。
- C. 薬剤取り上げチューブを小さいかえしに接続し、結束バンドで固定します。薬剤と取り上げチューブを後部プレートの薬剤取り上げチューブノッチまで配管します。16:1や1000:1といった大きな希釈度が必要な場合は、ウルトラ希釈毛細管チューブを薬剤供給ラインにインストールする必要があります。薬剤が濃い場合は必要ないことがあります。
- D. 水道：園芸用ホースを水流入端に接続します。水流入端をユニット側面に切り替えたい場合は、青色クリップを少し出すと、水流入端と水プラグを交換できます。水流入端フィッティングを回転させ、園芸ホースまたは銅管用アダプタフィッティングにねじ込んで固定します。水道の栓を開ける前に青色クリップが元の位置に押し込まれていることを確認します。



希釈度チャート

粘性	水	5 カット	17 カット	705 カット
P	525	1313	4500	9384
O	170	280	747	1525
N	93	128	260	504
M	64	89	153	327
L	47	58	100	207
K	37	45	73	147
J	25	29	43	91
I	20	22	31	72
H	17	19	27	63
G	15	16	22	56
F	12	13	17	46
E	9	9	11	39
D	8	7	9	36
C	4	4	5	37
B	3	3	4	37
A	3	3	4	39

低流量 BETAJET 希釈

粘性	水	5 カット	17 カット	705 カット
P	800	2000	4500	14300
O	315	520	1384	2825
N	180	249	506	980
M	120	167	287	614
L	97	122	200	433
K	76	92	150	301
J	52	61	90	189
I	41	47	66	152
H	36	40	52	134
G	32	35	46	121
F	27	30	35	103
E	21	22	26	91
D	18	19	21	85
C	7	7	9	69
B	6	6	8	67
A	5	5	7	66

高流量 BETAJET 希釈

濃い製品を使用する場合は、より大口径の製品チューブを使用し、十分な量の製品が取り上げられるようにします。

水に要求される条件

エアージャップ	R-ギャップ
H ₂ O = 1.0 - 5.5 bar	H ₂ O = 2.0 - 5.5 bar
H ₂ O = 14 - 28 PSI	H ₂ O = 28 - 78 PSI
H ₂ O ≤ 65 °C	H ₂ O ≤ 65 °C

1 カバーを取り外す



- 金属製 C-クリップをユニットに完全に押し込みます。
- カバーを持ち上げます。
- カバーを交換するときにはいつでも、最初にC-クリップを取り外します。常に注意して上部のヒンジ

2 ユニットを取り付ける

BetaJetから薬剤までの最大高さ:1.5m(5フィート)。水平距離は多少長くても構いません。

A. 数台のBetaJetをインストールする場合は、まずそれらを連結します。1台をインストールする場合はステップBに進みます。

- ベンチュリタブをつまんで押し、それぞれのプロポジションを後部プレートから外して持ち上げます。
- 後部プレートを平らな面に並べます。
- 青色のクリップをわずかに引き出します。
- インターコネクト (1202026) を使い、隣接するユニットの水プラグと水流入端フィッティングを取り外し、ユニットを連結します。
- ユニートをしっかり押し、青色のクリップがフィットして元に戻ることを確認します。



BetaJet

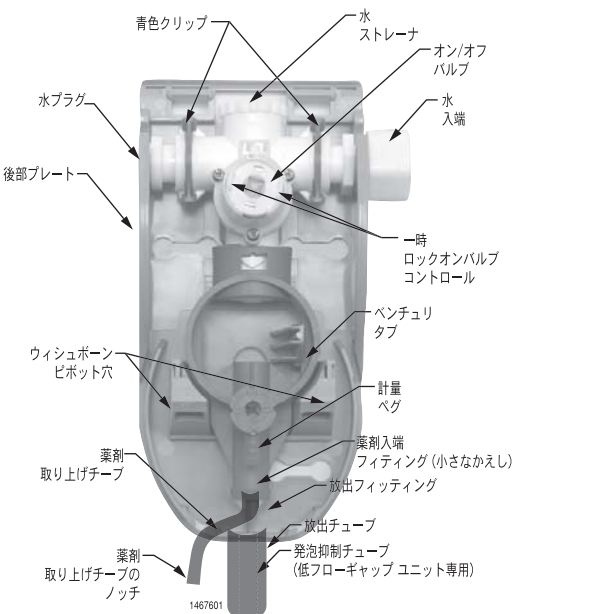
インストールとメンテナンス、トラブルシューティング



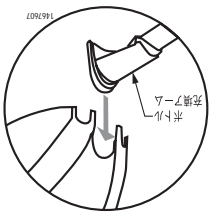
安全手順

インストレーション前に手袋と安全ゴーグルを含む、防護服を着用します。化学物質安全評価シート (MSDS) の特別な指示に従

インストレーション

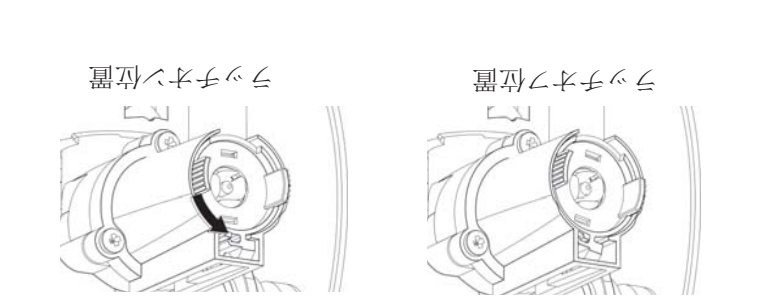


6 カバーの取り付け



図で示すように、低流量ユニット使用の場合は、BetaJetの底部パップオーニソクとボトル充填アームを一致させ、押し込みます。

8 ボトル充填アームの取り付け



シヤクを移動アトリケーションには、ユーザはカバーを1度押し、カバーを押したままの状態です。

7 シヤクアトリケーション遺著「保持」から「固定」動作への変更

装置作動

前部カバーを押して薬剤を散布します。

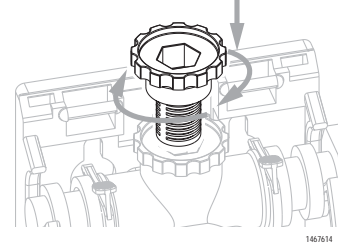
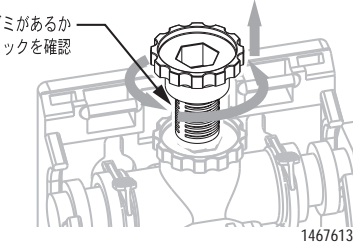
メンテナンス



修理/メンテナンス前に手袋と安全ゴーグルを着用し、水道を止めます。

定期的メンテナンスを行うと、システムの性能が改善され、故障予防処置が少なくなります。特に、エアギャップが必要な硬水地域あるいは水道に不純物が多い古い建物や地域ではそうです。水道の質に応じて、以下の手順を年1回行うことを推奨します：

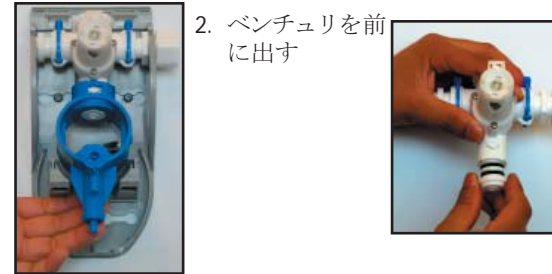
- 希釈度を確認する。
- 薬剤の残留物が溝に溜まっていれば、計量ペグをふき取るまたはリンスしてクリーニングします。
- フットバルブのスクリーンのつまりや破損をチェックします。
- 水フィルタソックとエアギャップノズルにゴミがないことを確認します。



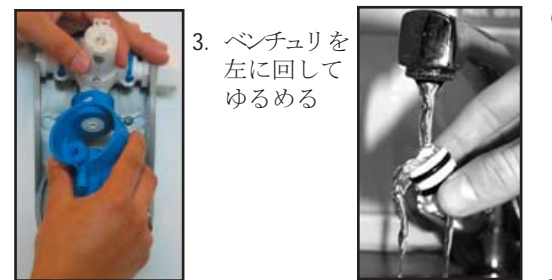
ベンチュリを取り外し、エラーギャップノズルを確認



4. ベンチュリを取り外す



5. ノズルを引き出す



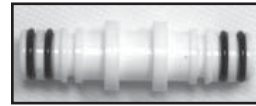
6. ノズルのスクリーンが汚れていれば、洗い流す。スケールが付いていればOリングを外し、30分間酸漬けする。



スペア部品

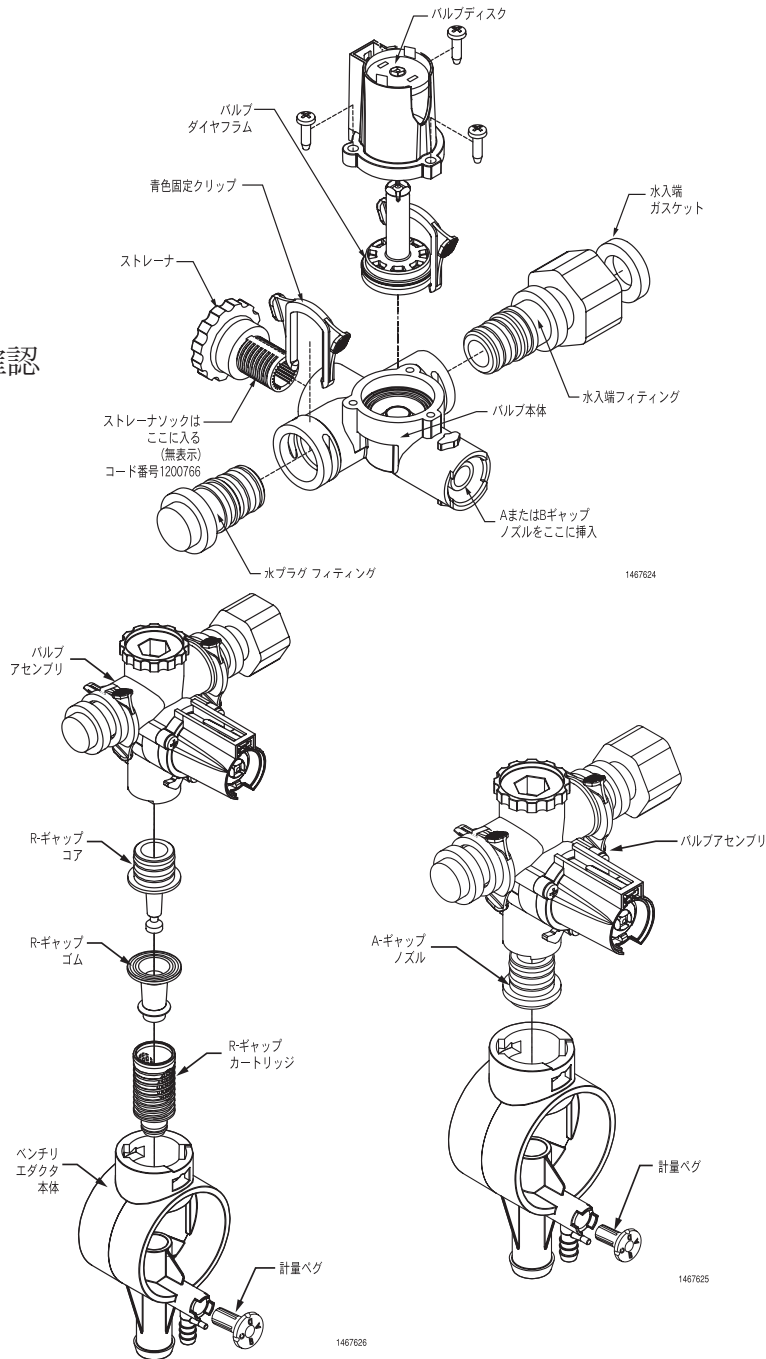
説明

部品番号



インターコネクト 1202026

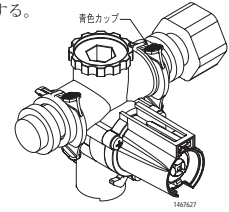
- バケツ充填フック 1202067
 - ホースフィッティング (ワッシャ付き) 1202027
 - 後部プレート 1204098
 - 計量ペグセット 1204153
 - カバー, BetaJet, グレー 1204102
 - ストレーナ ソック 1200766
 - カバー取り外し C-クリップ 1204103
 - ワイヤラック, 1 x 1 ガロン 1203104
 - ワイヤラック, 4 x 1 ガロン 1203105
- すべてのスペア備品に潤滑済みOリングが付いています。



Dwg #15404-00, Item # 1204809, Rev A

トラブルシュート

問題	原因	対策
1. 放出しない。	a. 水がない。 b. マグネチックバルブが作動していない。 c. 水圧過剰。 d. エダクタが詰まっている。	a. 水道を開く。 b. バルブ部品キットをインストールする。 c. 水圧が5.5 bar (78 psi) を超える場合は、レギュレータを設置する。 d. クリーニング (スケールとり) または交換する。
2. 濃縮液が出てこない。	a. フットバルブが詰まっている。 b. 計量ペグまたはエダクタにスケール蓄積している。 c. 水圧が低い。 d. 濃縮液容器が空。 e. 入端ホースのネジがエダクタにしっかり入っていない。 f. 水入端ストレーナが詰まっている。 g. 水入端ガスケットがない。 h. エダクタが仕様製品ではない。 i. 薬剤供給がY字フィッティングを通っている。 j. 水温が高すぎる。	a. クリーニングまたは交換する。 b. クリーニング (スケールとり) または交換する。 c. 水圧が最少要件を満たすことを確認する。R-ギャップを使用している場合、水圧がA-ギャップには十分でもR-ギャップには不十分なことがあるので、R-ギャップをA-ギャップに交換してみる。 d. 濃縮液が一杯の容器に交換する。 e. 締める。ただし、締めすぎないこと。NPTフィッティングを使用している場合は、テフロンパイプテープを使う。 f. 水道を閉め、ストレーナを取り外し、ストレーナに入っている「メッシュ」をクリーニングまたは交換する。 g. 新しいガスケットに交換する。 h. 高フローノズル/R-ギャップの場合は、エダクタが白色であることを確認する。低フローの場合は、エダクタが灰色であることを確認する。 i. エダクタのY字フィッティングを確認していると1台が他台からエアーを吸引するため、別の薬剤供給チューブとフットバルブを各ユニットに準備する。 j. 水温が70~75°Cを超えると、ベンチュリ内が真空状態になると水が沸騰することがあり、ユニットが薬剤を引き出せなくなります。これが問題であると疑われる場合は水温を下げます。
3. 濃縮液が出すぎる。	a. 計量ペグのチャンネルが正しく選択されていない。	a. 希釈度チャートをチェックし、低い希釈度に設定して再校正する。
4. 装置の作動を止められない。	a. 水バルブ部品が汚れている、または欠陥品である。 b. バルブディスクマグネットが完全に戻っていない。 c. キャピネットのカバーが引っかけかかっている。 d. 水圧過剰。 e. 装置がラッチ オン/オフに設定されている。	a. バルブ部品キットをクリーニングまたは交換する。 b. バルブディスクマグネットの自由回転を確認する。 c. キャピネットのアライメントを取り直す。 d. 水圧が5.5 bar (78 psi) を超える場合は、レギュレータを設置する。 e. バルブディスクを回して、この機能を停止させる。これには、「一時保持ボタンからロックオンボタンに変更する」セクションを参照すること。
5. 放出液が発泡しすぎる。	a. 取り上げチューブに空漏れがある。 b. 内部放出発泡抑制チューブが正しく位置していない。(A-ギャップ装置のみ) c. 内部放出発泡抑制チューブの長さが十分でない。	a. 流入端ホースのかえしをしめる。またはピックアップチューブを結束バンドやホースクランプでホースのかえし部分にしっかり固定する。 b. 発泡抑制内部放出チューブ (放出チューブ内部のチューブ) をインストールし直す。 c. 4mm バルクチューブを使い、チューブが数インチ長いことを確認する。
6. A-ギャップから液がはたばし、またはR-ギャップベントから水が放出する。	a. 放出チューブが制限されている。 b. 水圧が高い。 c. A-ギャップノズルが汚れている。 d. ノズルがゆるい。	a. 放出チューブが折れている、あるいは巻き込まれていない、持ち上がっていないことを確認し、また散布開始時に放出チューブ内に溶液が残っていないことを確認する。 b. 水圧が5.5 bar (78 psi) を超える場合は、レギュレータを設置する。 c. ノズルを交換する。 d. ノズルをバルブ本体にしっかり押し込む。

問題	原因	対策
	e. R-ギャップのゴムに問題がある。 f. 。	e. R-ギャップを分解し、ゴムが破損していなければチェックする。破損していれば交換する。破損していなければ、ゴムをプラスチック製コーンに、そしてゴムにカートリッジをのせて、バルブアセンブリに挿入する。エダクタを最後に取り付ける。ゴムがプラスチック製コーンと外側カートリッジとの間でアライメントが取れなかったり、ねじれていたりすると漏れの原因になることに注意する。 f. 高フローノズル/R-ギャップの場合は、エダクタが白色であることを確認する。低フローの場合は、エダクタが灰色であることを確認する。
7. カバーがディスプレイにフィットしない。	a. バルブ/ベンチュリ アセンブリが正しくロックされていない。	a. 各バルブ/ベンチュリのアセンブリを押して、ベンチリタブで固定されることを確認します。プロポーションが固定されると、タブは「カチリ」と聞こえる。
8. 水流入端フィッティングから水が漏れる。	a. フィッティングがバルブアセンブリに完全に挿入されていない。	a. フィッティングがバルブアセンブリに完全に挿入されていることを確認し、下図のように、青色の固定クリップが所定位置にあることを確認する。  入端フィッティングをバルブアセンブリの挿入する b. 水流入端と園芸用ホースが正しく接続されていない。 c. 水流入端フィッティングのネジ山が破損している。 d. 水流入端フィッティングにガスケットが入っていない。 e. Oリングが正しく組み込まれていない。
9. 水ストレーナから水が漏れる。	a. ストレーナが締め込まれていない。 b. Oリングが外れている。 c. バルブが変形している。	a. ストレーナをネジ込む。 b. ストレーナを取り外し、Oリングの位置を正しくさせ、ストレーナを取り付け直す。Oリングが破損している場合は、ストレーナアセンブリを交換する。 c. バルブを交換する。
10. 希釈が一貫していない。	a. 水圧が変動している。	a. 圧力レギュレータまたはフローワッシャをインストールして、水圧の変動を抑える。
11. ウィッシュボーンが所定位置に正しく入らない。	a. バルブ/ベンチュリ アセンブリが所定位置に正しく固定されていない。 b. 後部プレートが平坦でない壁にインストールされている。	a. 各バルブ/ベンチュリのアセンブリを押して、ベンチリタブで固定されることを確認します。プロポーションが固定されると、タブは「カチリ」と聞こえる。 b. ネジをゆるめ、後部プレートが曲がらないようにする。低部ネジに対しては、右のスロットの代わりに、薬剤放出フィッティング背部のキー穴を使用したことを確認する。
12. キーを紛失した。	a. 小型のねじ回しを使う。	a. 各バルブ/ベンチュリアセンブリを押して、ベンチリタブで固定されることを確認します。プロポーションが固定されると、タブは「カチリ」と聞こえる。ベンチリが固定されたら、ウィッシュボーンの上部はバルブディスクの上に位置し、ウィッシュボーンを押すと、バルブディスクをシャフトに容易に圧縮してユニットの作動をオン/オフさせる。
13. ユニットが作動できない。	a. バルブ/ベンチュリ アセンブリが所定位置に正しく固定されていない。	a. 各バルブ/ベンチュリアセンブリを押して、ベンチリタブで固定されることを確認します。プロポーションが固定されると、タブは「カチリ」と聞こえる。ベンチリが固定されたら、ウィッシュボーンの上部はバルブディスクの上に位置し、ウィッシュボーンを押すと、バルブディスクをシャフトに容易に圧縮してユニットの作動をオン/オフさせる。



BetaJetリングは互換ではありません。破損したOリングを別の部品からのOリングで代用しないでください。